

平成29年度 八重山商工高等学校評価(全日制課程)(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標
I 商業、工業に関する専門的な知識、技術及び技能を習得させ、産業界で活躍する人材を育成する。
II 心身共に健康で、将来にわたり主体的に学ぶ意欲と「社会を生き抜く力」を持った生徒を育成する。
III 豊かな人間性と創造性の伸張をはかり、主体性・積極性・協調性と柔軟性を持ったグローバル社会で活躍する生徒を育成する。

2 本年度の重点目標
(1) 主体的に学習意欲を持つ生徒の育成 (2) 自他の生き方考え方を尊重できる生徒の育成 (3) 社会をたくましく生き抜く力を持つ生徒の育成
(4) 将来の目標を持ち自己実現を目指す生徒の育成 (5) 生活習慣を正し意欲的に活動する生徒の育成 (6) 郷土の文化に誇りを持ち、友愛の精神を以て広く活躍できる生徒の育成

3 本年度の成果と課題
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県高校総体において男子ボウリング部が準優勝、工業においては、沖縄県情報技術コンテスト団体優勝、スターリングテクノロジー県大会・全国大会優勝、エコデンエース県大会優勝・全国大会12位、商業においても沖縄県高等学校商業実務競技大会 ワープロの部で団体準優勝・個人準優勝し九州大会・全国大会に出場しや部活動や教科活動で成果を上げた。 ・平成29年度グローバル育成海外研修(台湾)、中国教育交流研修に参加した。また、八重山マラソンなど中国語においてボランティアとして地域に貢献した。台湾地震への義援金活動も行った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の遅刻増など勤怠状況が悪くなっている。SNSによる生徒観トラブルの件数が増加している。

評価基準 A:とてもそう思う B:そう思う C:そう思わない D:とてもそう思わない			自己評価	平成29年度の成果・課題	平成30年度への改善点	学校関係者評価	
評価項目	具体的目標	具体的方策					
教育目標	教育実践の充実	① 職員は教育目標を意識して教育実践している。	B	教師は教育目標を意識して実践に移す事ができた。保護者への周知の方法は課題が残った。	生徒への説明に関しては始業式や学級開き、LHRでの周知を行う。保護者へはPTA総会や学級懇談会等で周知を行う。	B	
		教育目標の周知徹底					② 教育目標は生徒や保護者に知れ渡っている。
教育計画	実態に即した教育計画	① 生徒の実態に即した教育計画を編成している。	B	学校として目標達成に向けた教育計画を編成し実践している。中間学校評価(職員アンケート)が実施できたが、その後の改善策を検討する共通理解が必要。	各科・各コース、各教科において年度当初に話し合いを持ち、具体的な目標の設定を行う。中間アンケートを活用した改善策の検討が必要である。	A	
		生徒の個性伸張					② 生徒個々を伸ばす教育実践をしている。
学校運営	生徒の学力向上支援	① 個々の生徒を伸ばす学校運営がなされるようにする。	B	毎日の朝学や各教科において学力向上にむけて全職員で取り組む事が出来た。家庭との協力・連携は担任を中心に密に行っていく必要がある。	継続的な実践が必要となるので、これまでの成果を無駄にすることなく全員で取り組んでいく。	B	
		家庭地域との連携					② 家庭・地域と連携した学校運営を実施する。
教科指導	家庭学習の習慣化	① 主体的に学ぶ意欲を高め、家庭学習の習慣化が図られている。	B	各教科等、基礎・基本の定着を図り授業が実践されているが、単位保留科目を持った生徒が増加しているため、対策が必要。手帳の活用効果の分析。	学力向上指定校を受けてからの手帳を活用した学習のPDCAの習慣化の検証と分析を行う。	B	
		学力の向上と目標達成					② 生徒の希望進路が実現できるよう、学力の向上を図る。
特別活動	生徒会活動の充実	① 委員会活動が活発になる指導をする。	B	生徒は学校行事に積極的に取り組みほとんどの生徒が楽しいと評価している。3年生が引退のあと部活生が減少、活性化が必要である。	新入生に向けての体育系・文化系の入部への促進。各委員会の生徒の主体的な活動の支援を図る。	B	
		部活動の活性化					② 部活を奨励し、学校生活を充実させるよう指導する。
生徒指導	健全な生徒の育成	① 善悪の判断ができ、思いやりのある生徒を育成する。	B	身なり指導等、定期的実施できた。重大な事故はなかったが、登校時の車との接触事故が2件あった。勤怠指導の増加、アルバイトに状況把握が課題。	身なり・勤怠指導に関しては担任・生徒指導部を中心に全職員で継続して取り組む。アルバイト状況は係を中心にまずは状況把握して指導の徹底を図る。	B	
		交通安全・事故防止					② 交通安全指導を通し、交通事故の防止に努める。
進路指導	PTA進路学習会の実施	① 就職が「ダンス」・PTA進路学習会を実施する。	A	留学希望者2名を除く生徒130名が進路決定、県内においても早期で高い進路決定率であった。	進路決定100%の達成は基より、今後は定着率の向上について力を入れている。また、大学進学を増やすための手立てを考えていく。	A	
		進学・就職指導の充実					② 進路相談や三者面談を通して、生徒の進路支援を行う。
健康・安全指導	健康意識の向上	① 健康生活を営む態度の涵養を図る。	B	「学校いじめ防止基本方針」を改定し、平成29年度版ホームページに掲載できた。いじめの定義やいじめ防止対策などを記載し、全職員で共通理解が図れた。全生徒が健康診断の所検査を受診した。校内安全点検も定期的実施できた。	本校学校関係職員の普段からの目配り、気配りにより大きな問題は発生していない。今後も安全・安心な学校づくりに向けに目配り、気配りを続けていく。	B	
		危機管理体制の充実					② 危機管理体制を整備し、各種点検を行う。
		いじめのない学校づくり					③ いじめの実態把握・未然防止・早期発見に努める。
環境美化	清掃活動の徹底	① 清掃点検が行われ、ごみの分別収集を徹底する。	A	美化委員会によるゴミの分別活動、清掃強化週間の実施など生徒の主体的な活動を促すことができた。卒業式の花文字の文字は生徒からの提案であった。	学校緑化は用務員が中心になって行っているが、美化委員会を活用し、生徒中心に活動ができるように指導を心がける。	A	
		公共物を大切にす態度					② 公共物を大切にす態度を育成する。
家庭地域との連携	ニーズに応えた教育活動	① 保護者・地域の要望を生かした教育活動を行う。	B	メール配信は登録者・予算面から検討が必要となり中断しているが、今年度はHP時の更新を活発に行うことができた。	今後もHP更新を活発に行い、地域や中学校にアピールする。中学生への体験入学や学校説明会の際にはQRコードの配布などHP閲覧してもらう工夫が必要。	B	
		保護者との連携と理解					② 家庭との連携による教育活動の充実を図る。
中途退学対策	中退者をなくす取組	① 全職員が中退対策に取り組む。	B	教育相談係、養護教諭、外部カウンセラー、HR担任が協力・連携して支援・指導を行ったが5人の生徒が退学した。3年生は年度初めの在籍132名全員が卒業する	教育相談係りや養護教諭、外部カウンセラー、HR担任によるきめ細やかな指導および全職員による指導に取り組む。	B	
		全員進級及び卒業					② 補習・補充を行い、全員進級・卒業を目指した指導を行う。